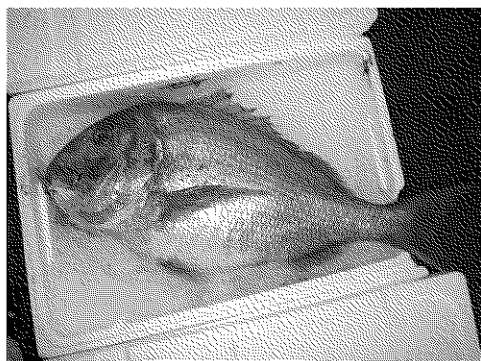


マダイ (Pagrus major)

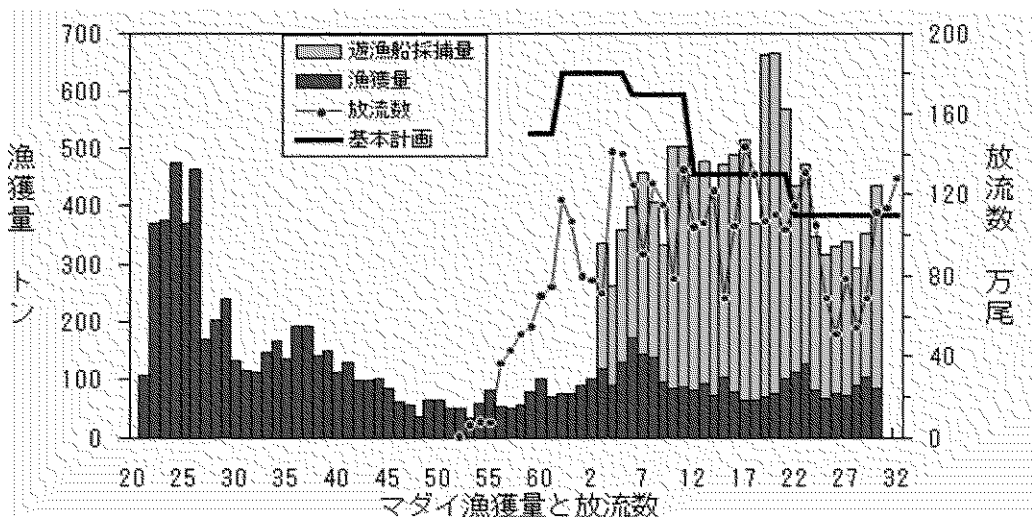
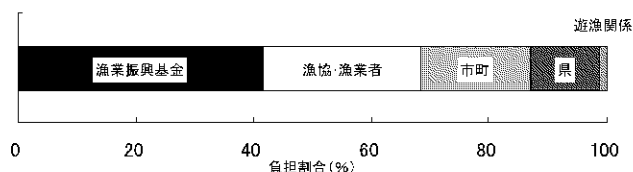
(タイ科)
 産卵期・産卵場：3-6月・沿岸域
 分布：北海道を除く日本沿岸、水深30~200mの岩礁や砂質の底層
 県内漁場：県内全域
 主な漁法（漁期）
 定置網（ほぼ周年） 船曳網（秋~春）
 釣り（ほぼ周年）



中間育成・放流実施機関

事業別	中間育成・放流機関
放流効果実証事業	(公財) 静岡県漁業振興基金 伊豆・中部・榛南地域栽培漁業推進協議会を組織し、基金運用益の他、市町・漁業者負担金、県補助金、遊漁者券金を財源として実施。
漁協単独事業	直接放流
遊漁関係団体事業	直接放流

種苗購入費の負担割合



技術課題への対応状況と残された課題

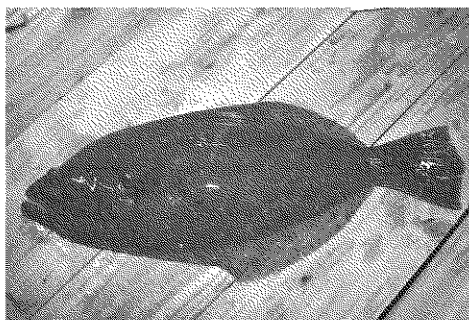
7次計画における技術課題		対応状況	残された課題
共通課題	生物生態	天然魚の遺伝的多様性の把握と地域系群の把握 放流魚の再生産による資源増大効果の把握	資源量推定により再生産および種苗添加による資源増大効果を把握 天然魚の遺伝的多様性の把握と地域系群の把握
	種苗生産	親魚の遺伝的多様性の向上 生産経費の低減、疾病対策	生産経費の低減、疾病対策
	放流	遺伝及び種の多様性に配慮した放流技術の開発 添加率の向上	遺伝及び種の多様性に配慮した放流技術の開発 添加率の向上
個別課題	中間育成	生残率の安定化と経費の低減化	飼育管理の改善により、生残率向上 (H30-R2) 生残率の高い水準での安定化 経費の低減

その他の成果・対応

* 放流適地である静穏な港内等への放流を指導（放流）

ヒラメ (Paralichthys olivaceus)

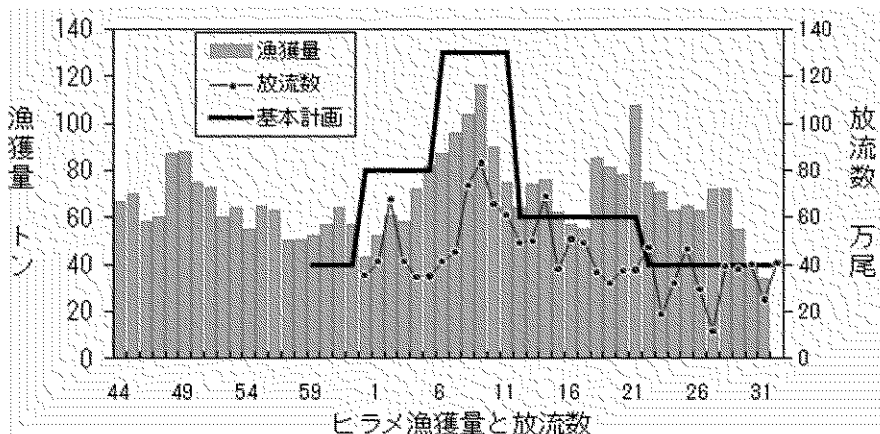
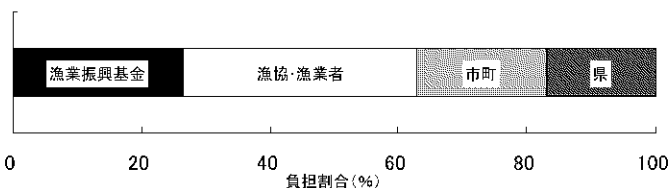
(ヒラメ科)
産卵期・産卵場：3-4月・沿岸域
分布：北海道を除く日本沿岸、水深30~200mの岩礁や砂質の底層カイ類などを食する。
県内漁場：県内全域
漁法・漁期：刺網(周年) 定置網(ほぼ周年)



中間育成・放流実施機関

事業別	中間育成・放流機関
放流効果実証事業 (榛南・沼津地区)	(公財)静岡県漁業振興基金 榛南地域栽培漁業推進協議会を組織し、基金逆用益の他、市町・漁業者負担金、県補助金、遊漁者募金を財源として実施。基金・市負担金により実施
漁協単独事業	直接放流
遊漁関係団体事業	直接放流

種苗購入費の負担割合



技術課題への対応状況と残された課題

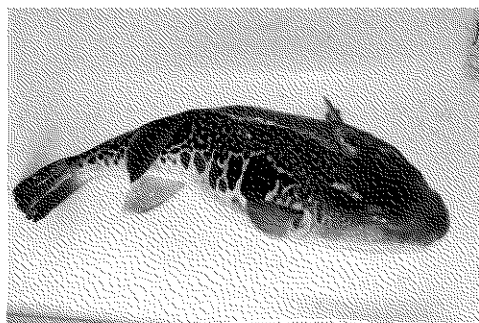
7次計画における技術課題		対応状況	残された課題
共通課題	生物生態	天然魚の遺伝的多様性の把握と地域系群の把握 放流魚の再生産による資源増大効果の把握	天然魚の遺伝的多様性の把握と地域系群の把握 放流魚の再生産による資源増大効果の把握
	種苗生産	親魚の遺伝的多様性の向上 生産経費の低減、疾病対策	天然親魚の毎年更新(一部再使用) 無換水飼育、低価格飼料の使用 生産経費の低減、疾病対策
	放流	遺伝及び種の多様性に配慮した放流技術の開発 添加率の向上	遺伝及び種の多様性に配慮した放流技術の開発 添加率の向上
個別課題	種苗生産		産卵の安定化
	中間育成	地域の状況に応じた中間育成手法、体制の整備	漁業者による中間育成の指導 地域の状況に応じた中間育成手法、体制の整備

その他の成果・対応

- * 受精卵消毒、産卵期における水温調整 (種苗生産)
- * 榛南海域における放流魚混獲率、年級群別回収率を推定 (放流)

トラフグ (Takifugu rubripes)

(フグ科)
産卵期・産卵場：4-5月・三重県安乗沖、愛知県渥美外海
分布：紀伊半島東岸から駿河湾沿岸域（伊勢・三河湾系群）
県内漁場：主に遠州灘
漁法・漁期：はえ縄（10月から2月）

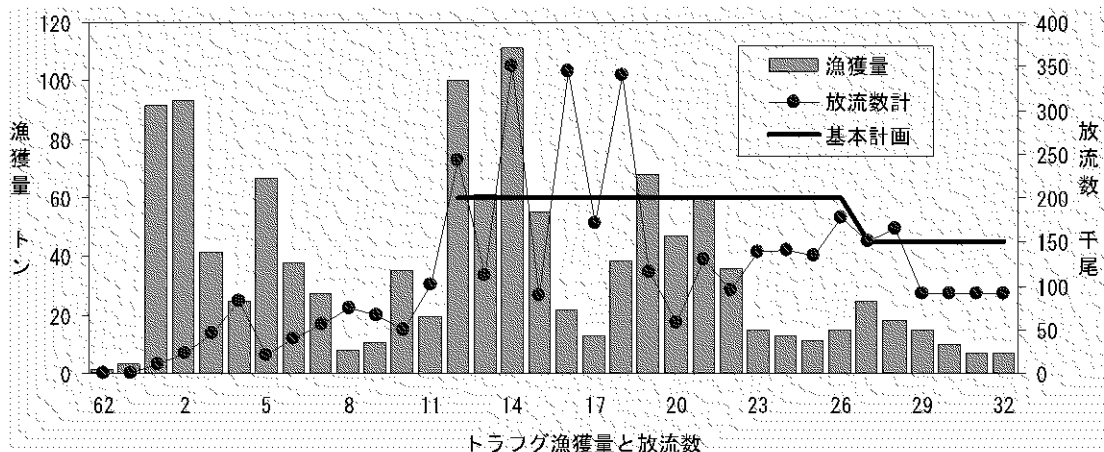
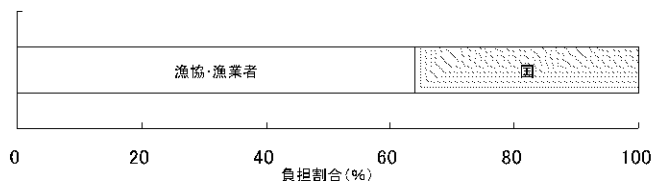


放流実施機関

事業別	放流機関
ふぐ漁組合事業（国補助事業） 水産総合研究センター 共同研究*	ふぐ漁組合連合会 水産総合研究センター南 伊豆庁舎

* 水産総合研究センター増養殖研究所南伊豆庁舎産種苗を使用

種苗購入費の負担割合



技術課題への対応状況と残された課題

7次計画における技術課題		対応状況	残された課題
共通課題	生物生態	天然魚の遺伝的多様性の把握と地域系群の把握 放流魚の再生産による資源増大効果の把握	天然魚の遺伝的多様性の把握と地域系群の把握 放流魚の再生産による資源増大効果の把握
	種苗生産	親魚の遺伝的多様性の向上 生産経費の低減、疾病対策	天然親魚の毎年更新 無換水飼育、低価格飼料の使用 生産経費の低減、疾病対策
	放流	遺伝及び種の多様性に配慮した放流技術の開発 添加率の向上	遺伝及び種の多様性に配慮した放流技術の開発 添加率の向上
個別課題	種苗生産	親魚の雌雄判別技術の開発	簡易な雌雄判別法の開発 親魚の長期養成技術の開発
	放流	放流適地の検討	放流効果が高い三重県有滝への放流を実施（適地放流）

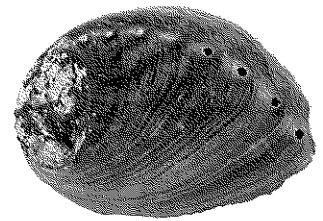
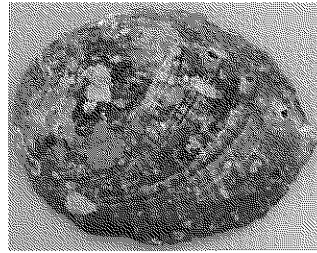
その他の成果・対応

* 関係都道府県間での生産体制の連携（受精卵の確保等）（種苗生産）

アワビ類 メガイアワビ及びクロアワビ

(*Haliotis gigantea*, *H. discus*)

(ミミガイ科)
 産卵期：11-12月
 分布：クロ 茨城県から九州、メガイ 房総半島から九州、水深 20m以浅の岩礁域
 県内漁場：伊豆半島及び駿河湾の岩礁域
 漁法・漁期：潜水器・素潜り（1月-9月）



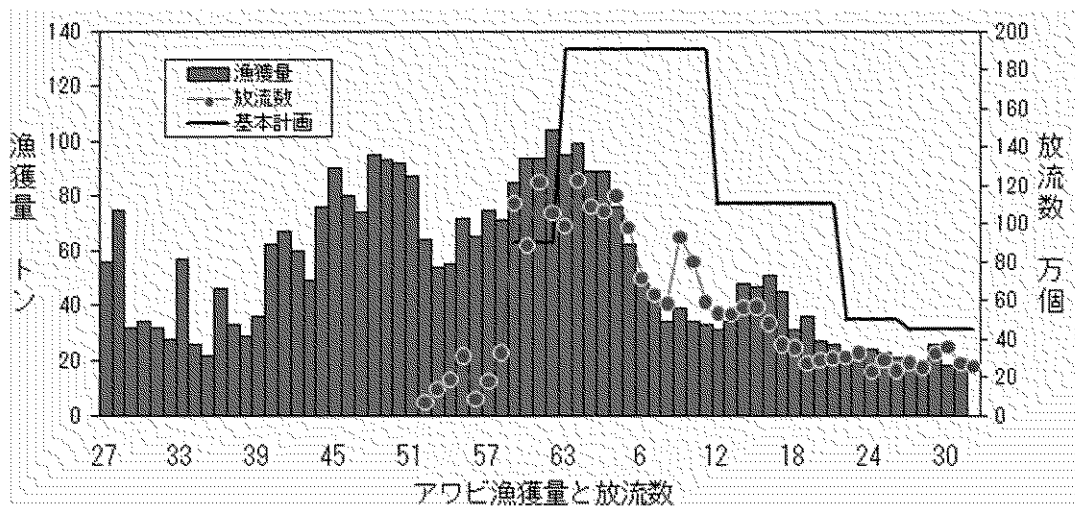
メガイアワビ

クロアワビ

放流実施機関

事業別	放流機関
漁協事業 榛南磯焼け対策協議会	同左

種苗購入費の負担割合



技術課題への対応状況と残された課題

7次計画における技術課題		対応状況	残された課題
共通課題	生物生態	天然魚の遺伝的多様性の把握と地域系群の把握 放流魚の再生産による資源増大効果の把握	天然魚の遺伝的多様性の把握と地域系群の把握 放流魚の再生産による資源増大効果の把握
	種苗生産	親魚の遺伝的多様性の向上 生産経費の低減、疾病対策	天然親貝の毎年更新(一部再使用) 低価格飼料の使用 生産経費の低減、疾病対策
	放流	遺伝及び種の多様性に配慮した放流技術の開発 添加率の向上	遺伝及び種の多様性に配慮した放流技術の開発 添加率の向上
個別課題	種苗生産	クロアワビの初期生残率の向上	紫外線殺菌装置の使用 初期餌料用珪藻の安定供給 飼育水槽等の不足
	放流	放流海域に応じた放流技術の開発 低コスト放流技術の開発	「メガイアワビ稚貝場造成指針」作成 幼生放流実験を行ったが、幼生放流が有効な放流手段として確立されていない クロアワビの放流技術開発

その他の成果・対応

* 配合飼料の使用、かご飼育から水槽直接飼育に変更（種苗生産）